

SPORT AND HEALTH SCIENCE

SPORT SCIENCE



SPORT MANAGEMENT



ここにしかない学びが
スポーツ健康科学の未来を創る

SPORT PEDAGOGY



HEALTH AND EXERCISE SCIENCE





「スポーツ」と「健康」を科学する。 4つのコースの学びを踏まえ、 社会に貢献する実践力と 大きな視野を育む。

今、社会では、健康の維持・増進に役立つ科学的な運動指導、日常生活を充実させる存在としてのスポーツのあり方が求められています。このような社会的ニーズに応えるため、スポーツ健康科学部では総合的・学際的な観点から「スポーツ」と「健康」に関わる幅広い課題にアプローチします。

理学、工学、保健衛生学、医学、教育学、経営学、栄養学などとあわせて、実践的な活動にも取り組むことで、現状の課題を把握し、解決策を提示できる人材を育成します。そのために、系統的なカリキュラムを用意しました。1・2回生ではスポーツ健康科学に関する基礎的な科目を学び、3回生から多様な関心や目指す進路に対応した「スポーツ科学」「健康運動科学」「スポーツ教育学」「スポーツマネジメント」の4コースに分かれて専門的な学びを深めます。

4つのキーワード

科学的に競技力を向上させる

健康の維持・増進を図る

保健体育・多様なスポーツに関わる指導法を探る

組織の運営を学ぶ



スポーツ科学

スキーのトップアスリートとして
学びを力に変えていく

森永 ののか さん 3回生
滋賀県出身・秋田県立角館高等学校卒

幼少期からスキーを始め、高校のインターハイでは日本チャンピオンになりました。この学部を選んだのは、最新設備が整っていること、競技に活かせる研究ができることが決め手となりました。

後藤先生のゼミでは低酸素環境のトレーニングを研究されており、私がやっているアルペンスキーに活かせるのではないかと選びました。標高2500～3000m位の酸素濃度に調整した環境でトレーニングを行うことで、スキーの競技力向上にどう繋がるのかという研究をしています。

卒業後もスキー競技を続けられるところへ就職したいと考えています。また、将来的にはアスリートに特化したジムのトレーナーになりたいという夢も持っています。後藤ゼミではトレーニング理論などトレーナーの資格に繋がる学びもできるので、夢に向かって挑戦したいと思います。学生の学びたいという意思を全面的にサポートしてもらえる、そんな環境がこの学部の魅力です。

最先端の施設・設備に囲まれ
実践へ活かすスキルを学ぶ

後藤 一成 教授

スポーツ科学コースは、バイオメカニクスやスポーツ工学のみならず、運動生理学や生化学に関することまで、幅広く学べるのが特色です。なぜオリンピック選手は強いのか、選手がさらに高いレベルを目指したい時にどんなトレーニングをすればよいのかなど、身体の機能の高め方や動作について、理論的に考えていくのがスポーツ科学コースと言えます。



健康運動科学

アスリートの競技パフォーマンス向上の
一助となる研究を続けたい

松村 哲平 さん 4回生
大阪府出身・立命館高等学校卒

中学の頃から陸上部に所属しており、スポーツについて見識を深めたいという思いでこの学部を選びました。3回生の時に競技パフォーマンスを向上させるエルゴジェニックアイド*に興味を持ち、ただ競技力を向上させるだけでなく、「正しく使う」といった健康科学の側面からも研究したいと考え健康運動科学コースを選択しました。この学部での学びはスポーツと直結しているため、所属している陸上部でも研究内容が活かされています。現在は橋本ゼミで、カフェインの摂取によって100メートル走のタイムにどのような影響がでるのかという実験を行っています。

今後は大学院に進学し、カフェインを中心に陸上だけでなく様々なアスリートの競技パフォーマンス向上の一助となるような研究を進めていく予定です。

※…サプリメント、メンタルトレーニング、マッサージなど、競技力の向上をサポートする手段の総称

健康の維持・増進に貢献できる
運動指導者の育成を目指す

橋本 健志 教授

運動量・身体活動量の増加や、体力の向上によって様々な運動器傷害や生活習慣病になる確率が下がります。本コースでは、健康の維持増進に対する運動・身体活動効果のメカニズムを学んだ上で、健康を保つためのプランを提案できる人材を育成、運動器傷害を原因とする体力の低下や、生活習慣病などの予防に貢献できる知識・実践力を養います。



スポーツ教育学

子どもたちの未来を創る
スポーツ振興の仕事を目指す

池田 有里 さん 3回生
山形県出身・酒田南高等学校卒

小学生から続けていた陸上がケガで出来なくなり、高校2年生の時に新たな可能性を求めて J-STARプロジェクト*に参加しました。そこで身体特性としてボート競技に適性があると言われたのがきっかけで、ボートの強豪校である立命館大学への入学を決めました。

私自身、高校以前の幼少期から選手育成事業に参加しており、子どもを対象とした研究をしたいと思っていました。上田先生は成長期に行う運動能力が上がるといわれているコーディネーショントレーニングの研究をされていたので本コースを選びました。

ボート部では日本一連覇を目指していますが、今後は選手としてだけでなくサポート側としてスポーツに携わりたいです。将来的にはアスリートを目指す子どもを発掘・サポートする組織へ就職し、子どもたちの人材育成に関わっていきたく考えています。

※…将来オリンピックなどに出場したい若いアスリートを応援する国家プロジェクト

科学的アプローチで
人を「育てる」技法を学ぶ

上田 憲嗣 准教授

体育・スポーツに関わる指導理論・実践を学ぶコースです。教育学・栄養・コーチング学・心理学・発育発達学・障がい者スポーツ等、バラエティーに富んだ領域において、指導実践の行い方を常に問いかけることが、本コースのコンセプトです。教員や、スポーツ指導者いずれも、科学的根拠に基づいた指導技術・指導方略が重要となります。



スポーツマネジメント

オンライン会議での後悔を解決する
独創的な研究テーマ

水野 瀬奈 さん 4回生
富山県出身・富山県立魚津高等学校卒

オープンキャンパスで見た「ココアを飲むと運動能力があがる実験」がとても印象的でよかったため入学を決めました。大学ではダンス部で代表をつとめ、アルバイトでもリーダーシップの重要性を感じたことから、組織心理学やリーダーシップ論について学べるスポーツマネジメントコースを選びました。

現在は山浦ゼミで「オンライン会議におけるリーダーの視線が及ぼす影響」というテーマで研究をしています。新型コロナウイルスの影響を受けて、ダンス部の企画会議をオンラインで行なっていました。その中で、私はその部の代表としてメンバーが意欲的に発言する雰囲気をつくるのができずに後悔することがありました。このような社会状況や技術が進展する中で、どうしたらチームがより一層いきいきと活動できるのか、部活経験と研究を通して考えています。

ぶつかった壁を解決したいといった自主性があれば可能性が拓けるところが、この学部の魅力だと思います。

スポーツを通して
社会での実践スキルを身に付ける

山浦 一保 教授

観る、する、支えるなど、非常に多面的なスポーツと人との関わりをさまざまな角度からデザインするのが、スポーツマネジメントの世界です。スポーツを題材に、リーダーシップやマネジメント、マーケティングなどの社会に通用する実務的なスキルを身につけるとともに、スポーツの振興についても考察します。





「新型コロナウイルス」という世界共通の課題を突きつけられ、私たちの日常は一変しました。「立命館」という学びの舎の扉を開いた多くの学生は、キャンパスに足を運び、高校生までには、出逢わなかった人たちと語り合ったり、これまでの価値観が覆されるような「ハッとする」講義を受けたりするなどといった、当たり前であった行為やそこからもたらされる価値が奪われてしまいました。オンライン授業といった「非日常」での学びがいまや常態化し、逆にこれまでの日常であっ

いまここにある未来を生み出すスポーツ健康科学

たリアル体験が「非日常化」してしまうような様相を呈しています。

コロナ禍による世界の混乱がなければ、オリンピック・パラリンピック東京大会が2020年に華々しく開催され、アスリートが肉体の極限に挑みながら、競い合うシーンに多くの人たちが目を奪われていたことでしょう。そして、「スポーツという人間の行為」に驚愕、一喜一憂し、また魅了され、心が動かされていたことと思います。加えれば、オリンピック・パラリンピックにまつわる最先端の科学的なトレーニングや様々なテクノロジーの進化、ビッグイベントを支える企業とスポーツの結びつきやビジネス戦略などの様々なエピソードを知った人たちは、「スポーツを学びたい!」と心をときめかせたことかも知れません。ただ、現実的には、東京大会の開催の是非が問われ、改めて、「オリンピック・パラリンピックの存在とは何か」、また「スポーツという行為が人々や社会に何をもたらすのか」が問われているようにも感じます。

社会が直面する危機は、当たり前であった日常とともに、私たちの「生き方」や「物事の捉え方」、また人としての「ありよう」を見つめ直す機会を与えてくれます。かかる意味において、「スポーツ健康科学」とは、どのような学問なのでしょうか? スポーツが好きな人やスポーツをしている人だけが学ぶ学問なのでしょうか?

スポーツ健康科学は、人々の生命を司る遺伝子レベルの極めてミクロな生化学的かつ細胞学的な研究から人々の行動を規定する心理的な研究、また世界をも動かすマクロな経済学的かつ政策学的な研究に至るまで多岐に渡っています。私たちは、これまでの常識にとらわれず、「スポーツ」や「健康」をサイエンスとして探究し、人と社会の健康と幸福をデザインしたいと考えている人たちが、「いまここにある未来」を生み出すことに情熱とエネルギーを注げる人たちと出逢えることを楽しみにしています。

スポーツ健康科学部 学部長

長積 仁 教授

学習段階に合わせ、各プログラムをバランス良く配置したカリキュラム 自然科学と社会科学を網羅した総合的な視点からスポーツと健康にアプローチします。

Curriculum	1 回生		2 回生	
	1 セメスター	2 セメスター	3 セメスター	4 セメスター
	基礎的力量			
基礎専門科目	リテラシー科目 日本語表現法 基礎理科 簿記入門	基礎数学	調査方法論	
	スポーツ健康科学 生涯スポーツ論	基礎スポーツ医学I (内科系) 学習科学論 マーケティング論 基礎経営学	スポーツ栄養学 トレーニング科学 コーチング論	基礎スポーツ医学II (外科系) スポーツ心理学 スポーツマネジメント論
専門科目	共通科目 スポーツ健康科学特殊講義I スポーツ健康科学セミナーI		スポーツ健康科学特殊講義II スポーツ健康科学セミナーII	インターンシップ (国内・海外) サービスマネジメント (専門)
	スポーツ指導実習A (バスケットボール/ソフトボール) スポーツ指導実習A (バレーボール) スポーツ指導実習A (サッカー) スポーツ指導実習B (ダンス)	スポーツ指導実習B (アダプテッドスポーツ)	スポーツ指導実習B (陸上競技) スポーツ指導実習B (器械体操)	スポーツ指導実習B (柔道) スポーツ指導実習B (有酸素・レジスタンストレーニング)
			パフォーマンス測定評価実習I	パフォーマンス測定評価実習II
小集団演習	基礎演習 ※25名程度		研究入門 ※20名程度	

●1・2回生では、プロジェクト発信型英語「英語P (プロジェクト英語)」, 「英語S (英語スキルワークショップ)」が外国語科目 (必修) として配置されています。

3回生から4コースに分かれ、関心や進路に応じた実践的教育を学ぶ

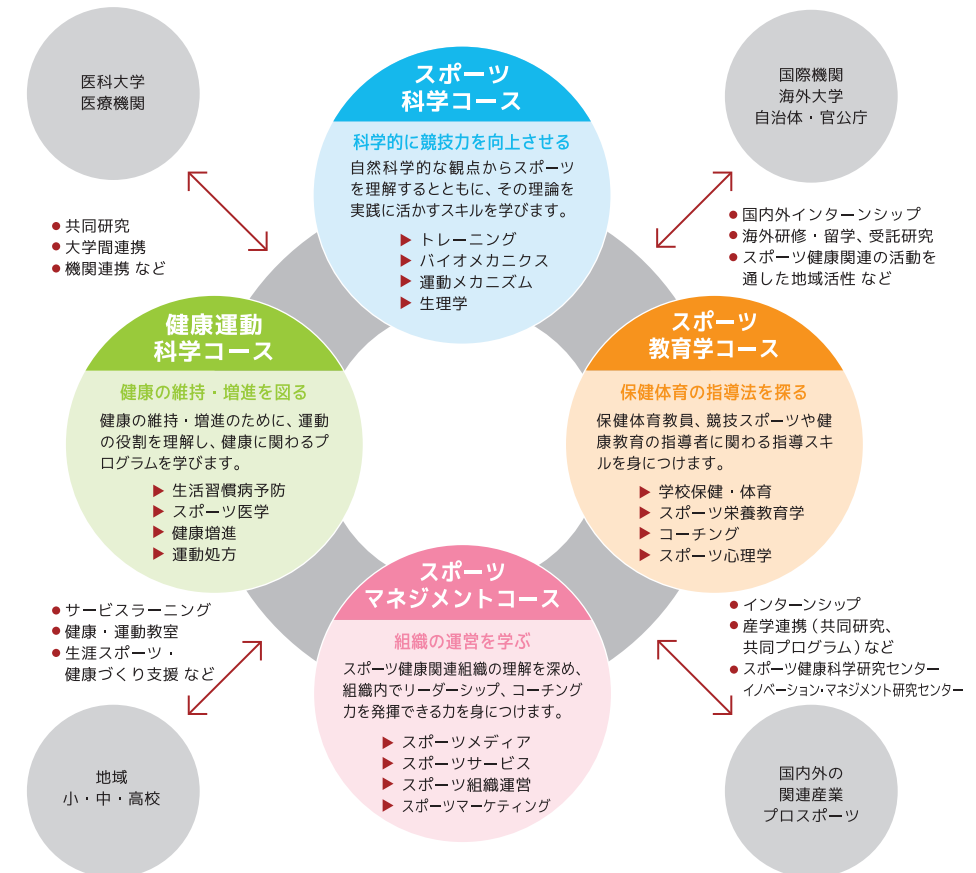
学際的に理論を学ぶとともに、国内外の組織等との連携や、最新鋭の施設・設備を活用した実践的教育を展開します。

身につけることができる知識・能力

- 1 スポーツ健康科学を構成する多様な分野の基礎知識
- 2 組織を動かすリーダーシップ・コーチングの力量
- 3 理論と実践を通したスポーツ健康分野の専門知識・技術



最先端の機器を使用した実習プログラム



コース選択実施	3回生		4回生		
	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	
専門的力量					
各コース専門科目	スポーツ科学コース	エクササイズプログラミング論 スポーツ医工学 スポーツサイバネティクス論 スポーツ生化学 スポーツ生理学 スポーツバイオメカニクス論 スポーツ科学特殊講義			卒業論文
	健康運動科学コース	運動処方論 健康運動指導論 健康増進科学 運動生理学 生活習慣病論 健康施策論 健康運動科学特殊講義			
	スポーツ教育学コース	スポーツ栄養教育学 学校保健学 スポーツ教育学 スポーツカウンセリング論 スポーツ指導論 アダプテッドスポーツ論 スポーツ教育学特殊講義			
	スポーツマネジメントコース	組織マネジメント論 サービスマネジメント論 スポーツビジネス論 スポーツ政策論 スポーツマーケティング論 スポーツメディア論 スポーツマネジメント特殊講義			
専門英語（スポーツ健康科学I）		インターンシップ（健康運動指導士） 専門英語（スポーツ健康科学II）			
スポーツ指導実習B（水泳）					
健康スポーツ指導実習		解剖・生理学実習			
専門演習（ゼミナール） ※10名程度		専門演習（ゼミナール） ※10名程度			

※1クラスあたりの人数
カリキュラムの内容は予定であり変更の可能性があります。

「理論と実践」の学びを通じて、 社会に貢献できる人材を育てる

スポーツ健康科学分野の基礎となる理論はもちろん、

実践的な教育にも重きを置き、実験・実習やインターンシップ、

サービスマーケティングといった地域・企業と連携する科目も充実しています。

授業と課外活動が連携し、学んだ理論を実践することで学びを深め、

現場で応用できる力を養成。

このような「理論と実践」双方の学びを通し、社会に貢献できる人材を育てます。

理論

実践

理論をスポーツ健康分野の現場で
実践する

インターンシップ

立命館大学はインターンシップの派遣者数で日本でも有数の規模を誇ります。そんな立命館大学のなかで、スポーツ健康科学部は、派遣者数・実習先(提携先)企業・団体数が最も多い学部です。実習先は、Jリーグのプロサッカークラブやプロ野球独立リーグ、スポーツ用品メーカーだけでなく、出版社や教育委員会など、多岐に渡ります。また、海外でのインターンシッププログラムも実施し、グローバルに活躍したい学生を応援しています。

学生インターンシップ体験談 [JISS(国立スポーツ科学センター)]

進路を考え出した3回生時、研究職への興味から、JISS(国立スポーツ科学センター)のインターンシップへ参加しました。その時、JISSの運営はJSC(日本スポーツ振興センター)が担っていて、JSCはJISSのようなトップアスリートの支援だけでなく、学校安全への支援やスポーツ振興に関する支援、体育館や競技場の運営など、日本のスポーツを幅広くサポートしていることを知りました。そして、その点が、本学部のスポーツ科学コースや教職課程で、スポーツ・健康について幅広く学んでいた私にとって最適な場所であると考え、就職を志望するようになりました。

現在は、学校安全部という部署で学校安全に関する業務を担当しています。主に、学校で発生したケガに対する医療費給付業務を行っている為、身体の部位やケガの名称と向き合う日々です。この業務は、本学で学ぶような身体の部位やケガに対する知識を必要とする為、学部での学びは業務と深く関連しています。また、関係者に制度の説明をする機会では、学生時代に学会発表や卒業論文の口頭試問を経験していたことが、簡潔にそしてわかりやすく説明する力として活かされました。

このように、学生時代のインターンシップがきっかけで就職を志望したJSCにおいて、本学部での学びは多く活かされています。今、与えられている仕事で幅広い知識を更に習得しながら、将来的にはJISSで働くことが目標です。

内田 絵梨 さん

独立行政法人日本スポーツ振興センター
学校安全部 大阪給付課 勤務
大阪府出身・桜宮高等学校卒



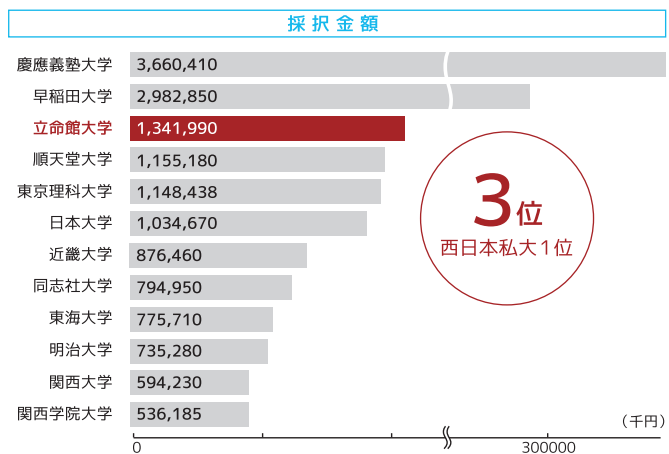
スポーツ健康科学分野において圧倒的に高い水準にある研究力

立命館大学は、文部科学省から発表された「令和2年度科学研究費助成事業(科研費)の配分」において、配分額ランキングで慶應義塾大学、早稲田大学に次ぐ私大3位(西日本私大1位)、採択件数ランキングでも初の私大3位(西日本私大1位)となりました。

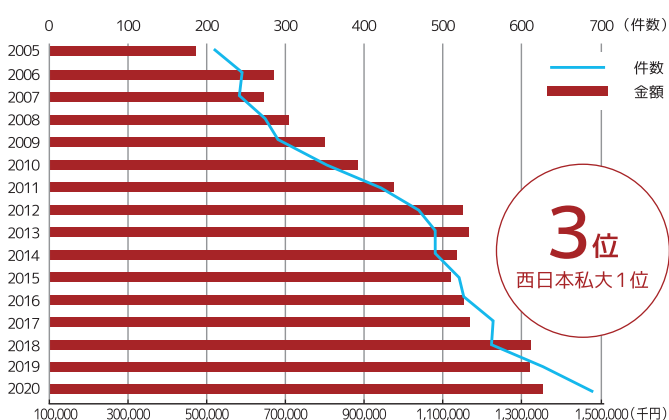
そんな立命館大学の中でもスポーツ健康科学部は、各教員が高度な研究実績を持ち、国内外においてスポーツ健康科学分野をリードする研究を積み重ね、スポーツ健康科学分野の他大学と比較しても高い水準にあります。

科研費ランキング

[令和2年度採択金額・件数(いずれも新規+継続)私立大学のみ]



立命館大学の科研費採択金額と件数の推移



グローバル・アスレティックトレーナー(GAT)プログラム



ATCとは

ATC (Certified Athletic Trainer) 米国 公認アスレティックトレーナー

1990年にアメリカ医学会において認知されたATCは、プロスポーツ選手から一般の人々を対象に、活動(運動)中に起こる外傷の救急措置、傷病や疫病の予防・認知・評価、リハビリテーションなどに関わる専門職であり、理学療法士や看護師等と同じ準医療従事者です。ATCの資格を得るためには、CAATE公認^{*1}のカリキュラムを持つ大学もしくは大学院を卒業(修了)し、BOC^{*2}による資格認定試験に合格する必要があります。更に、米国における制度変更により、今後認定試験の受験資格が学士から修士に引き上げられます。

※1 CAATE: The Commission on Accreditation of Athletic Training Education ※2 BOC: The Board of Certification Inc.

☑ GATプログラムとは



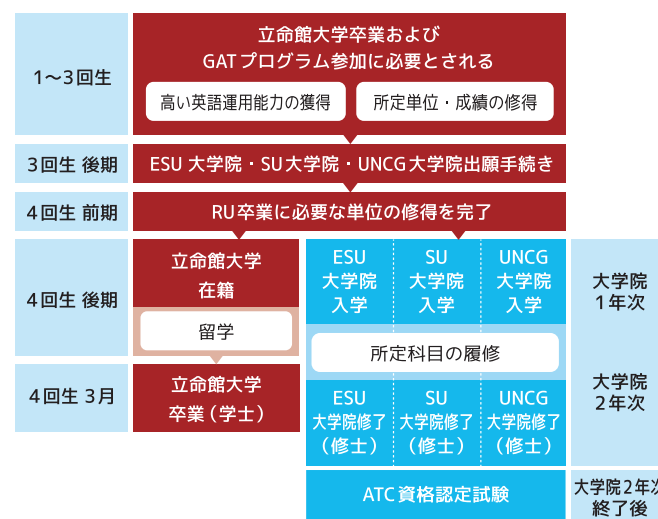
立命館大学の学士号とESU・SU・UNCGの修士号を取得し ATCの資格取得を目指す独自の留学プログラム

GATプログラムは、CAATE公認のカリキュラムを備えた大学院を持つ米国のEast Stroudsburg University of Pennsylvania(以下、ESU)・Spalding University(以下、SU)・University of North Carolina at Greensboro(以下UNCG)と提携し、4回生の前期終了時まで立命館大学の卒業に必要な科目の修得を終え、夏頃から各大学院へ留学し、立命館大学の学士号と修士号の双方を取得することで、ATCの受験資格を得ることができるよう設計されています。

最大の特長は、立命館大学で修得した科目が各大学院進学のための先修要件として認められるということです。これにより、通常個人で留学する場合と比べて短い期間で修士号まで取得しATCの受験資格を得ることができます。

※早期卒業制度を利用した場合は、3回生修了をもって立命館大学卒業後、ESU大学院・SU大学院・UNCG大学院へ留学するという形で、ATC受験資格取得までにかかる学費等の諸経費を軽減することが可能です。ただし、早期卒業制度を利用するには所定の基準を満たすことが必要となります。

☑ GATプログラムの流れ



※上記は一例であり、また大枠を記載した図です。実際のスケジュールはRU及び各大学院の学年暦に準じます。
※早期卒業制度を利用した場合は、この限りではありません。
※本学入学後、最終的に2つの学位を取得するには、少なくとも5年数ヶ月を要することとなります。

スポーツ健康科学部開講のGATプログラム向け科目や、それぞれの大学院への出願手続、大学院での講義などは、全て英語で実施されるため、高い英語運用能力が必須となります。また、最速で各大学院へ入学するためには、一定以上の成績で4回生の前期終了時まで立命館大学卒業に必要な科目を修得する必要があります。スポーツ健康科学部における履修をしっかりと積み重ねていくことが求められます。



WEB上にパンフレットを
掲載しています。 注目!!

GATプログラムの詳細やGATプログラム
参加のための準備プログラム、そして各
フィールドで活躍するATCの方々や学生
のインタビューなどを紹介しています。

スポーツ健康科学部 立命館 検索

トップレベルの教員陣が、 高度な研究活動を展開

高度な研究実績を持ち、国内外において

スポーツ健康科学分野をリードする教員陣が揃っています。

専門分野の枠を超えて有機的に連携し、

高度な教育・研究を実践しています。



教員の実績インフォメーション（抜粋）

経歴・受賞歴等

- 〈田畑泉、家光素行〉
 - 第22回 秩父宮記念スポーツ医・科学奨励賞（2020）
- 〈和田由佳子〉
 - 平成30年度 日本スポーツマネジメント学会 学会奨励賞（2019）
- 〈塚本 敏人〉
 - Gatorade Sports Science Institute and American College of Sports Medicine (GSSI-ACSM), Young Investigator Award (2017)
 - 日本体力医学会、国際学術交流奨励賞（第1位）(2017)
 - European College of Sport Science, GSSI Young Scholar Travel Grant Award (2016)

執筆論文・書籍

- 〈上田憲嗣〉
 - 児童期における動作コーディネーションと体力の関係、トレーニング科学、31/1, 45-52, 2019
 - 短時間運動が児童の握力及びボール投げならびに運動有能感に与える影響について、スポーツ教育学研究、39/2, 1-11, 2020
- 〈海老久美子〉
 - エッセンシャルスポーツ栄養学（編集・共著／市村出版）、2020
- 〈大友 智〉
 - 中学校・高等学校 体育科教育法（共著／建帛社）、2021
 - 平成29年度小学校新学習指導要領ポイント総整理 体育（共著／東洋館出版社）
- 〈田畑泉〉
 - 「4分で身体は変えられる」の科学～なぜ短時間・高強度運動が人気なのか～（扶桑社）、2020
- 〈永浜明子〉
 - 自閉症スペクトラムをめぐる二者の現象学的当事者研究：「傷つきやすさ」と「特性」／(MISC) 研究論文、『傷つきやすさの現象学』83-104(大阪大学)、2020
 - 「間」に生起する自閉症スペクトラム／大阪大学出版会、2020
- 〈山浦一保〉
 - Perceived goal instrumentality is associated with forgiveness: A test of the valuable relationships hypothesis. Evolution and Human Behavior, 41(1), (共著)58-68, 2020
 - JAIO35周年記念企画（講座本）第2巻 人を活かす人事部門（共著／北大路書房）、pp.127-148, 2019
- 〈和田由佳子〉
 - プロ野球チームのブランド理想がアタッチメントに及ぼす影響：パシフィックリーグに所属するチームを対象として、スポーツマネジメント研究、オンライン早期公開, 2020（共著）
 - Comparison between First and Repeat Spectators of Super Rugby Games: Focusing on Spectators' Motivation, Psychological Connections and Behavioural Intentions. Social System Studies, 39: 43-64, 2019（共著）

教員情報（詳細）はこちら！



教員の研究内容等詳しい情報は、
「スポーツ健康科学部ウェブサイト」
<http://www.ritsumeai.ac.jp/shs/introduce/faculty-list.html/>

スポーツ健康科学部 立命館

検索

スポーツ科学



長野 明紀 教授

【専門分野】
スポーツサイバネティクス・
スポーツバイオメカニクス
【研究テーマ】
人体の運動制御のメカニズムに関する
研究運動機能向上のための工学的支援

アスリートに限らない 身体運動の原理原則の解明

人体の運動力学、バイオメカニクスの研究を軸に、運動の原理原則の解明に力を入れています。経験的に良いとされる身体の使い方で、まだ科学的に立証されていないものは多くありますが、近年の計測機器や解析機器の進化により、分析できる対象や動作が広がってきました。

現在、メーカーと共同で、足のアーチ構造が人体へ及ぼす影響や、足のアーチを作るための靴下やインソールの有用性を研究しています。

将来的にはアーチ構造を持ち、身体への負荷を軽減できる靴下の開発を目指しています。



家光 素行 教授

【専門分野】スポーツ生理・生化学
【研究テーマ】運動および栄養摂取の効果と機序解明に関する研究



伊坂 忠夫 教授

【専門分野】スポーツバイオメカニクス・スポーツ科学
【研究テーマ】スポーツ競技力ならびに日常生活を高めるための応用バイオメカニクス



金久 博昭 教授

【専門分野】スポーツ科学
【研究テーマ】日本人の筋のトレーニング・バイオメカニクス



後藤 一成 教授

【専門分野】トレーニング科学
【研究テーマ】競技力向上および健康増進のためのトレーニングとコンディショニングに関する研究



塩澤 成弘 教授

【専門分野】スポーツ工学・生体工学・医用工学
【研究テーマ】スポーツ・健康・医療分野の生体計測センサ/デバイスに関する研究



藤田 聡 教授

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】効率的な骨格筋肥大を目的とした運動と栄養摂取に関する研究



福谷 充輝 講師

【専門分野】トレーニング科学・スポーツバイオメカニクス
【研究テーマ】スポーツパフォーマンス向上の基礎となる、骨格筋の力学的、生理学的特徴の解明



正田 悠 助教

【専門分野】パフォーマンス科学・認知科学
【研究テーマ】舞台芸術における演者一鑑賞者間ダイナミクスの解明、社会的信号処理による対人間相互作用の研究



塚本 敏人 助教

【専門分野】運動生理・栄養生理学
【研究テーマ】諸刃の剣として脳に作用する運動を、脳循環代謝の観点から理論化して改善策を導く研究



橋詰 賢 助教

【専門分野】バイオメカニクス・人間情報工学
【研究テーマ】健常者および障害者の身体運動に伴う負荷に関する研究



長谷川 夏輝 助教

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】生活習慣病に対する運動効果およびメカニズム解明に関する研究

健康運動科学



村上 晴香 教授

【専門分野】
行動科学・運動遺伝学
【研究テーマ】
運動行動誘発を通じた健康づくりに関する研究

運動行動の誘発メカニズムを知ること 運動を介した健康づくりの推進を

私たちは、「運動が健康によい」と認識していながらも、それを行動として実行することや、実行できたとしても継続することには困難さを感じます。ヒトが運動行動を起こす場合、運動が「楽しい」「心地よい」といった内発的要因に加え、「運動を行うことで痩せる」「運動は健康によい」といった外発的要因などが関与します。この際、ヒトの生体内では、分子生物学的・生理学的なメカニズムの下、「運動行動」が認識・決定・実行されます。

人々が困難さを感じる「運動行動」について、その誘発メカニズムを解き明かすことで、誘発・継続させるシステムへと繋げ、人々の人生の基盤となる健康づくりへの貢献を目指しています。



真田 樹義 教授

【専門分野】応用健康科学・運動処方
【研究テーマ】生活習慣病予防のためのテラレーメイド運動処方の研究異分野の連携がもたらす価値創造



篠原 靖司 教授

【専門分野】スポーツ医学・整形外科科学
【研究テーマ】機能解剖学的アプローチによるスポーツ傷害に関する研究



田畑 泉 教授

【専門分野】健康科学
【研究テーマ】身体活動・運動による生活習慣病予防に関する研究、競技力向上のための高強度・短時間・間欠的トレーニングに関する研究



橋本 健志 教授

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】脳機能や脂肪燃焼の亢進および乳酸の有効利用に関する研究



岸本 康平 講師

【専門分野】スポーツ医学
【研究テーマ】スポーツによる慢性疼痛の原因解明と予防法に関する研究



寺田 昌史 講師

【専門分野】スポーツ医学・運動神経生理学・バイオメカニクス
【研究テーマ】身体運動にともなう下肢傷害（特に足関節捻挫とCAI）がどのような「生活と健康」に影響を与えるかを調べる



藤江 隼平 助教

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】運動・栄養介入による心血管疾患リスクへの効果と機序解明に関する研究



前大 純朗 助教

【専門分野】トレーニング科学・神経筋生理学
【研究テーマ】筋力トレーニングに伴う中枢神経系および骨格筋の適応

スポーツ教育学



大友 智 教授

【専門分野】
スポーツ教育学・体育科教育学
【研究テーマ】
スポーツ指導場面・体育学習場面における教授・学習に関する研究

全ての子供に運動・ スポーツの価値の享受を

運動が嫌いな子供も好きな子供も、等しく運動・スポーツの価値を味わい、人生を豊かに過ごして欲しい。そんな思いを実現したいと考えています。そのために、子供達の運動への取組、指導者との会話、子供達同士の話し合い等を分析し、法則を探索してきました。それらを踏まえて、滋賀県、北九州市、高知県、茨木市、群馬県等で先生を対象とした研究や研修を進めています。その結果、研修を受けた先生の指導により、子供の体育嫌いが少なくなったという効果を得ました。



海老 久美子 教授

【専門分野】スポーツ栄養学・栄養教育学
【研究テーマ】栄養的支援と食教育の効果についての研究



岡本 直輝 教授

【専門分野】コーチング
【研究テーマ】競技力向上に関するコーチング研究



上田 憲嗣 准教授

【専門分野】発達発達学・スポーツ教育学
【研究テーマ】子どもの身体と運動の発達発達と体育・スポーツ指導に関する研究



河井 亨 准教授

【専門分野】大学教育学・学習論・キャリア形成
【研究テーマ】「大学生の学びと成長」に関する理論的・実証的・実践的研究



笹嶋 育子 准教授

【専門分野】スポーツ心理学・スポーツ教育学
【研究テーマ】競技力向上を目的としたメンタルトレーニングの効果およびスポーツにおける対人援助に関する研究



永浜 明子 准教授

【専門分野】学校保健学、アダプテッド・スポーツ
【研究テーマ】インクルーシブ体育のあり方、指導者育成に関する研究

スポーツマネジメント



種子田 穰 教授

【専門分野】
スポーツマネジメント
【研究テーマ】
プロスポーツビジネスモデルの研究

ビジネスと社会貢献の両面から スポーツマネジメントを考える

私は2001年から、アメリカのプロスポーツとして最も成功を収めているNFLとのパートナーシップを通してスポーツビジネスを研究してきました。そこにはスポーツがビジネスとして自立していくための、さまざまな方法論があります。一方で、スポーツを通じた社会貢献活動と、それを支える企業の存在というのも、スポーツマネジメントの重要な側面です。本学部は2012年度、スポーツ文化振興を推進する一般財団法人ユナイテッド・スポーツ・ファウンデーションと学術協定を締結。ビジネスと社会貢献の両面から、スポーツマネジメントを実践的に学べる環境をさらに充実させています。



長積 仁 教授

【専門分野】スポーツマネジメント
【研究テーマ】スポーツによるソーシャル・キャピタルとまちづくり、異分野の連携がもたらす価値創造



山浦 一保 教授

【専門分野】産業・組織心理学
【研究テーマ】信頼ベースのリーダーシップとチーム力向上に関する心理学的研究



和田 由佳子 講師

【専門分野】スポーツマネジメント・スポーツマーケティング
【研究テーマ】「スポーツ組織とイベントが地域に与える影響およびスポーツ消費者に関する研究



英語科目担当教員

祐伯 敦史 准教授

【専門分野】神経言語学
【研究テーマ】言語理解や習得のプロセスについて研究・解明する



英語科目担当教員

峰見 一輝 講師

【専門分野】心理言語学
【研究テーマ】ヒトの言語理解メカニズムの解明

社会人基礎力とグローバルな視野を備えた人材には、 多様な進路が広がっている

Voice

卒業生の声



小島 ちなみ さん

株式会社ワコール
ウエルネス事業部 営業担当
大阪府出身・大阪府立寝屋川高等学校卒

在学中の軌道修正でたどり着いた
“ウエルネス”という居場所

誰かのために直接何かをして、その人の人生を豊かにする仕事に就きたいと考えており、お客様に寄り添ったブランド展開をされているワコールに入社しました。ワコールと聞くと、皆さんインナーや下着をイメージされると思いますが、私の所属するウエルネス事業部はスポーツ関連の商品を扱っています。健康な体づくりを通してお客様に寄り添っていくことが方針の部署で、それに携われていることをとても楽しく感じます。担当している直営店のマネジメント業務では、肉や骨、有酸素運動といった学部でのスポーツに関する学びがお客様へのアドバイスに活かされていますし、在学中にマーケティングを専攻していたため、スポーツ市場の動向も身近に感じることができています。

スポーツ健康科学部には体育教師の職に憧れがあり入学しましたが、自分の興味に合わせてマーケティング分野へシフトチェンジすることができたので、4つのコースを選択できる学びの体制はとても魅力的だと思います。

今は会社を通じてお客様のために何かをするという形ですが、将来は直接顔の見えるところでお客のために何かしたいと考えています。

Voice

卒業生の声



今井 彩乃 さん

大学院1回生
スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程
スポーツ健康科学専攻
京都府出身・立命館高等学校卒

低酸素トレーニングに代わる
新たな可能性で未来を切り拓く

小学生から大学生まで競泳選手として過ごす中で、効果的なトレーニング方法や栄養について考えるようになりました。その結果、成績が伸びたことで、スポーツにおける科学的な視点を持つ重要性に気づき、トレーニング科学をもっと学びたいと思いました。3回生の時にスポーツ研究機関である国立スポーツ科学センターのインターンシップに参加し、トップアスリートのパフォーマンス測定などアスリートと直接関わってサポートしたことで、将来はアスリートをサポートする立場として世界で活躍したいと思うようになりました。また、学部での研究成果を学会で発表する機会をいただき、自分の得た知見を広く発信する喜びを知る一方、力不足を痛感しました。これらの経験によって視野が大きく広がり、自らの知識をもう一段階深いところまで掘り下げていきたいと考え、大学院への進学を決めました。

大学院では低酸素トレーニングに代わる運動方法として、呼吸を意図的に制限することで同様の効果を得るための研究を進めています。今後は分野を越えてさまざまな研究者と議論を交わし、トレーニング科学における新たなイノベーションを起こしていきたいです。

Voice

卒業生の声



鈴木 拓也 さん

Neosho County Community College
アシスタントアスレティックトレーナー
三重県出身・高田高等学校卒

GATプログラムのパイオニア
アスレティックトレーナーとしての歩み

GATプログラム1期生として学部で学んだ後、米国公認アスレティックトレーナー(ATC)の資格取得のため米国へ渡りました。(※P6参照)ATC取得後はアイオワ州でインターンシップを経験し、2021年1月よりアシスタントアスレティックトレーナーとして働いています。

今働いているのはコミュニティカレッジで、野球やバスケット、サッカー、チアダンス、陸上、レスリングといった11競技のアスリートを受け持っています。アスリートの総人数は300人近くおり、私を含む2名のアスレティックトレーナーで対応しています。

日本ではあまり聞き馴染みがないかもしれませんが、アスレティックトレーナーは長期間アスリートに寄り添って日々の変化を観察し、細かい部分までサポートができることが魅力です。今後できればアメリカでアスレティックトレーナーとして働いていきたいと考えています。GATプログラムに参加する人たちの繋がりは強く、今でも後輩と連絡をとったり参加者の相談にのったりしています。もし日本に戻ることにしたら、アスレティックトレーナーがもっと活躍できるような環境を作る活動ができればと考えています。

Voice

在学生の声



小林 友都 さん

3回生
静岡県出身
静岡県立袋井高等学校卒

団体運営にNPO活動
自ら動くことで人と繋がり、人を繋げる

大学に進学するのであれば好きなことを学び、“好き”を仕事にしたいと思い、スポーツ健康科学が学べるこの学部に入学しました。

実際に入学してみると、設備も高校とは桁違いで、授業内容も幅広く、学びを深める最適の場所だと感じています。

私はトレーナーになることを目指しており、そのために運動指導の経験値をしっかりと積みたいと思ったことから、藤田先生が創設されたNPOに参加しました。活動内容としては健康バンドを使ったエクササイズで、地域の高齢者にZoomを使ってトレーニング指導を行っています。他にもパフォーマンス向上を目的としたトレーナーを目指す人の団体を運営しています。まだ立ち上げばかりなのですが、いずれは組織化してスポーツ健康科学部の学生と体育会のアスリートとを繋げ、より専門性の高いトレーニングを考えていく場になればと思っています。

現在ゼミでは、物を持った状態と何も持たない状態で、サイドステップにどのような違いが出るのか研究しています。研究が進めば結果をトレーニングに活用したり、日常生活にも応用したりと、色々と発展させられるのではないかと思います。

取得可能な資格

- 健康運動指導士※1
- 健康運動実践指導者※1
- 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者※2
- トレーニング指導者※1
- ATC (米国 公認アスレティックトレーナー)
- 中学校教諭一種免許状 (保健体育)
- 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)

※1 認定試験の受験資格が得られます。

※2 資格取得に必要なとなる基礎的な科目の修得が可能です。

立命館大学でキラリと 輝く先輩を紹介中！

キラリと輝く学生

+R 人



+R 人 立命館

検索

立命館大学には早期卒業の制度があり、私は3回生で卒業して大学院に進む予定です。トレーナーへのステップアップとして、できることは全部やろうと考えています。大学院でも現在の研究を進めていき、アスリートのパフォーマンス向上に留まらず、スポーツを始める人への指導のアプローチや普段の生活に活かすことを目指していきたいです。

将来は大学での経験を活かし、トレーナーの現場と研究分野を繋げていきたいと考えています。そのためには自分で起業して仲介役のコミュニティを作るかもしれませんが、どんなに優れた研究も現場に活用できなければ意味がないと思っているので、まずは現場ベースで最先端のエビデンスを持ったトレーナーを目指し、学びを深めていくつもりです。

就職分野と実績

■スポーツ関連企業

(株)アシックス・美津濃(株)グンゼスポーツ(株)・(株)ゴールドウィン・ゼビオ(株)・セントラルスポーツ(株)・つるや(株)・デサントジャパン(株)・(株)ドーム・HOS(株)・(株)ピバ・山本光学(株)・(株)楽天野球団・(株)モンベル・ブリヂストンスポーツ(株) 他

■教職員・公務員

国家公務員一般職・地方公務員(上級職)・京都府教育委員会(小学校・中学校)・京都市教育委員会(小学校)・長浜市役所・高知県教育委員会(中学校)・滋賀県教育委員会(小学校)・守口市役所・滋賀県警察本部・三田市役所・京都府庁・警視庁・東京消防庁 他

■サービス・マスコミ

(株)TBSテレビ・(株)ディリースポーツ・東海テレビ放送(株)・(株)ADKホールディングス・東映(株)・出光興産(株)・大阪ガス(株)・関西電力(株)・(株)NTTドコモ・静岡ガス(株)・北海道電力(株)・中部電力(株)・北海道旅客鉄道(株)・西日本旅客鉄道(株)・九州旅客鉄道(株)・伊藤忠商事(株)・三井物産(株)・豊田通商(株)・日本航空(株)・全日本空輸(株)・(株)オリエンタルランド・日本電気(株)・(株)野村総合研究所・(株)オービック・楽天(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本 他

■食品

アサヒフードアンドヘルスケア(株)・エスビー食品(株)・カゴメ(株)・(株)ブルボン・(株)ヤクルト本社・ハウスウェルネスフーズ(株)・キリン(株)・サントリーホールディングス(株)・味の素(株)・日清食品(株)・伊藤ハム(株)・アサヒビール(株)・ハウス食品(株)・山崎製パン(株)・(株)ロッテ 他

■医療

武田薬品工業(株)・第一三共(株)・アステラス製薬(株)・塩野義製薬(株)・シスメックス(株)・ゼリア新薬工業(株)・東レメディカル(株)・日本赤十字社・ロート製薬(株)・久光製薬(株)・大塚製薬(株)・Meiji Seikaファルマ(株)・小林製薬(株)・旭化成(株) 他

■メーカー

パナソニック(株)・キヤノン(株)・テルモ(株)・(株)豊田自動織機・住友電気工業(株)・(株)LIXIL・(株)ワコール・日本たばこ産業(株)・京セラ(株)・豊田合成(株)・(株)ファーストリテイリング・帝人(株)・富士通(株)・花王(株)・オムロン(株)・日本精工(株)・マツダ(株)・積水化学工業(株)・(株)村田製作所・トヨタ自動車(株)・伊藤忠食品(株)・Apple Japan 合同会社 他

■金融・保険

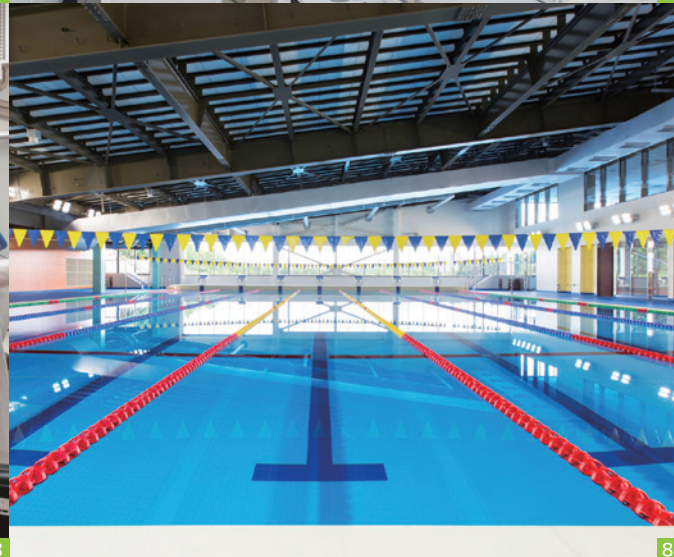
(株)香川銀行・(株)京都銀行・京都信用金庫・京都中央信用金庫・(株)滋賀銀行・住友生命保険(相)・第一生命保険(株)・日本生命保険(相)・三井住友海上火災保険(株)・(株)三井住友銀行・明治安田生命保険(相)・(株)三重銀行・(株)三菱東京UFJ銀行・(株)みずほフィナンシャルグループ・野村證券(株) 他

■大学院進学

スポーツ健康科学研究科 博士課程前期課程

最先端の教育・研究環境が、 高度で充実した学びをサポート

最先端の教育・研究を実現するため、高度な研究に欠かせない充実した施設・設備を保有しています。
興味のある研究を深めるために学部生のうちから、このような環境を存分に利用することができます。



学部生の
うちから
最新鋭の設備を
使用できます

1 スポーツパフォーマンス測定室
野球やゴルフ、ランニングなどのスポーツ動作をはじめ、あらゆる動作の計測・解析が行える多目的スペース。複数の「ハイスピードカメラ」を設置しており、投げたボールの回転をスローモーションで観察するといった相対分析もできます。

2 エネルギー代謝測定室
「壁面のセンサ」で人間の1日の正確なエネルギー消費量を測定することが可能です。

3 低酸素実験室
低酸素環境下でのトレーニングが身体に与える影響を解析することができます。

4 栄養調理実習室
システムキッチンや調理器具が整っており、競技力向上につながるメニューや栄養価の高い料理などを実際に調理することが可能です。またダイニング部分は、子どもから高齢者までを対象とした「食育」を実践する場として活用します。

5 トレーニング指導実習室
トップアスリートの筋力増加を想定した各種「トレーニングマシン」や「フリーウエイト機器」を完備。現場におけるトレーニング技術の習得をめざします。

6 スポーツ健康指導実験室
筋パワーや持久力の測定評価ができる「パフォーマンス測定システム」や、人間の体型を3次元で瞬時に解析する「3次元人体計測システム」など、多様な機器を設置しています。

7 MRシステム・骨密度測定装置
人間の体内の状態や脳内の働きを調べることができる「MRシステム」、骨密度や体脂肪、除脂肪量などの体組成を推定する「骨密度測定装置」を設置。これらを利用して、スポーツ健康分野に関連した高度な研究ができます。日本のスポーツ健康科学関連の施設では、国立スポーツ科学センターに並ぶ、最新鋭の設備となります。

8 スポーツ健康 commons
通年使用可能な25m公認プール(温水)7レーン、50mの屋外プール4レーンを設置した体育館は、実習科目や測定実験等で利用することが可能です。

奨学金

学生を全面的にサポートする充実の奨学金制度

立命館大学では豊富な独自奨学金を設け、学業はもちろん、スポーツ活動、留学など、自分の目標にチャレンジする学生を幅広くサポートしています。本学独自の給付制奨学金のほか、日本学生支援機構や公的機関・民間団体などの各種奨学金制度が充実。

→ 詳しくは立命館大学入試情報サイトをご覧ください。 [立命館](#) [入試情報サイト](#) [検索](#)

■ スポーツ健康科学部 2022年度入試概要（予定）

※以下の入試概要は変更される場合があります。

詳細は入学試験要項（（総合型選抜）AO：6月下旬、一般：10月下旬発行予定）でご確認ください。

募集人数

235名

※募集人数は、一般選抜、AO入試、特別入試、学内進学等による募集人数の合計です。

Webからダウンロード可能

立命館 入試情報サイト

検索

	入試方式		試験科目・概要	試験地
（総合型選抜） AO入試	グローバル・アスレティック トレーナー方式		【第1次選考】書類審査 【第2次選考】小論文、個人面接	びわこ・くさつ キャンパス
	教員熱望方式		【第1次選考】書類審査 【第2次選考】「プレゼンテーション用資料」作成、プレゼンテーション、個人面接	
一般 選 抜	3教科型	全学統一 （文系）	【外国語】（配点：120点）英語（コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II） 【国語】（配点：100点）国語総合・現代文B・古典B（漢文の独立問題は出題しません） 【選択科目】（配点：100点）政治・経済・日本史B・世界史B・地理B、数学（数学I・数学II・数学A・数学B（数列・ベクトル））から1科目選択	① ②
		理系型3教科方式	【外国語】（配点：150点）英語（コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II） 【数学】（配点：150点）数学（数学I・数学II・数学A・数学B（数列、ベクトル）） 【理科】（配点：100点）物理（物理基礎、物理）、化学（化学基礎、化学）、生物（生物基礎、生物）から1科目選択	
		学部個別配点方式 （文系型）	【外国語】（配点：150点）英語（コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II） 【国語】（配点：150点）国語総合・現代文B・古典B（漢文の独立問題は出題しません） 【選択科目】（配点：100点）政治・経済・日本史B・世界史B・地理B、数学（数学I、数学II、数学A、数学B（数列、ベクトル））から1科目選択	①
	大学入学 共通テスト 併用方式	大学入学共通テスト 併用方式【3教科型】	【外国語】（配点：100点）英語（コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II） 【国語】（配点：100点）国語総合（近代以降の文章）、現代文B 【大学入学共通テスト受験科目】（配点：100点）数学、公民、地理歴史、理科から高得点1科目を採用	
	大学入学 共通テスト 方式	7科目型	【大学入学共通テスト受験科目】（配点：合計900点） 外国語、国語、数学（配点：各200点、合計600点）と公民、地理歴史、理科から高得点3科目を採用（配点：各100点、合計300点）	本学独自の試験は実施せず、大学入学共通テストの得点のみで判定。 「学部・学科・学域・専攻・コース」と「科目・教科型」の組み合わせが異なれば、併願に制限はありません。
		5教科型	【大学入学共通テスト受験科目】（配点：合計700点） 外国語、国語（配点：各200点、合計400点）と数学、公民、地理歴史、理科から高得点3科目を採用（配点：各100点、合計300点）	
		後期型〈4教科型〉 3月選考	【大学入学共通テスト受験科目】（配点：合計600点） 外国語、国語（配点：各200点、合計400点）と数学、公民、地理歴史、理科から高得点2科目を採用（配点：各100点、合計200点）	
	後期 分割 方式	大学入学 共通テスト併用 3教科型	【外国語】（配点：100点）英語（コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II） 【国語】（配点：100点）国語総合（近代以降の文章）、現代文B 【大学入学共通テスト受験科目】（配点：100点）数学、公民、地理歴史、理科から高得点1科目を採用	③
試験地		①千葉（柏）・東京（市ヶ谷）・横浜・金沢・名古屋・滋賀（草津）・京都・大阪茨木・大阪南・神戸・広島・高松・福岡・大分 ②札幌・仙台・埼玉（大宮）・東京（八王子）・新潟・松本・静岡・浜松・福井・三重・姫路・和歌山・岡山・松江・山口・松山・北九州・熊本・鹿児島 ③千葉（柏）・埼玉（大宮）・東京（市ヶ谷）・東京（八王子）・横浜・金沢・名古屋・滋賀（草津）・京都・大阪茨木・大阪南・神戸・広島・高松・福岡・大分		

※各入試方式の出題範囲等については、入学試験要項で確認して下さい。 ※インターネット出願の入試方式の場合でも、調査書等の出願書類は別途郵送が必要であり、出願期間最終日の消印有効です。

2022年度の入学試験に関する情報・日程については右記のURL
（立命館大学入試情報サイト）より確認をお願いします。
試験方法についても変更になる可能性がありますので、HPを参照してください。

<http://ritsnet.ritsumeai.jp/>



information 1 10周年サイトを開設しました！

スポーツ健康科学部10周年サイト

立命館 スポーツ健康科学部 10周年サイト 検索

立命館大学スポーツ健康科学部・研究科は2020年に10周年を迎えました。10周年サイトでは、これまでの軌跡や学生、卒業生の様子を掲載しています。



information 2 オープンキャンパスサイトがオープンします！

WEBでみるスポーツ健康科学部の OPEN CAMPUS

立命館 スポーツ健康科学部 オープンキャンパス 検索

動画で学部のこと、入試のことがわかる特設ページです。
入試関連情報、模擬講義、施設紹介等を動画でお届けします。



facebook



<https://www.facebook.com/rits.spoken/>

公式WEB

<http://www.ritsumeai.ac.jp/shs/>

立命館 スポーツ健康科学部 検索



〈お問い合わせ〉

びわこ・くさつキャンパス スポーツ健康科学部事務室

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1
TEL. 077-561-3760

